

30T-am11

禁煙とその指導 一薬系大学における禁煙指導について—

○高橋 瑞穂¹, 定本 清美¹, 武藤 里志¹, 柳川 忠二¹ (¹東邦大薬)

【目的】健康増進・予防医学的な見地から禁煙に関する啓蒙活動は世界的な広がりを見せている。医療・教育の場で全面禁煙を実施する施設が増えるなど、わが国においても様々な活動がみられるが、その取り組みは、先進諸国に比べ十分とはいえない状況である。今回、われわれは、薬系大学における喫煙の実態と、禁煙対策への取り組み・教育について調査を行ったので報告する。【方法】全国の薬系大学全 63 校に依頼したアンケート結果をもとに、教職員・学生に対する禁煙指導についての実態を調査した。【結果】回答の得られた全 60 校中、教職員に対し喫煙に関する指導教育を行なっている施設は、21 校 (35%) にとどまった。指導内容の詳細をみても、半数以上の施設は、会議等で喫煙に関する学内方針を立てるにとどまり、個別の指導は行なっていないことがわかった。また、指導教育の開始時期については、2・3 年前から、と回答した施設が 47.6% と最も多く、それ以前から取り組んできた施設は 23.8% であった。教育の達成度については、目標半ばであるとした施設が 6 割を超え、学内における教職員の喫煙率は、平均 15.8% であった。臨床系教員に限定すると喫煙率は 6.2% である。次に、学生に対する禁煙指導について。学校として取り組んでいるとした施設は、全体の 56.7% である。多くの場合、年度初めのオリエンテーション時に、指導を行なっているが、新設大では、半数以上の施設が授業の中で指導を行なっている。学内での基準遵守度は、全体で 26.7% であった。【考察】大学における禁煙への取り組みは、施設間で大きな差があり、全体としての遵守度も高いとはいえない結果であった。国民の健康確保を職務とする薬剤師養成の場である薬系の大学において、教職員・学生への禁煙教育とその成果向上は、急務の課題であると考えらる。